

第12期 第1回 府中市美術館運営協議会 次第

令和5年2月5日（日）
午後2時～
府中市美術館 講座室

- 1 開会
- 2 委嘱状の伝達
- 3 府中市美術館 館長挨拶
- 4 委員および事務局の自己紹介
- 5 正副会長の選出
- 6 諮問事項の伝達
- 7 議題
 - (1) 府中市美術館運営協議会について
 - (2) 府中市美術館について
 - (3) 諮問事項について
 - (4) その他
- 8 閉会

[配布資料等]

- 資料1 第12期 府中市美術館運営協議会 委員名簿
- 資料2 関係法規 府中市美術館条例・府中市美術館条例施行規則（抜粋）
- 資料3 第12期 府中市美術館運営協議会 予定
- 資料4 府中市美術館 要覧
- 資料5 府中市美術館 年間スケジュール（令和4／2022.4～令和5／2023.3）
- 資料6 第11期 府中市美術館運営協議会 答申書
- 資料7 府中市美術館 入館状況の推移（令和1～3年度）
- 資料8 府中市美術館 歳入歳出事項別状況（令和1～3年度）

第 1 2 期 府中市美術館運営協議会 委員名簿

(令和 4 / 2 0 2 2 年 1 2 月 1 6 日 ~ 令和 6 / 2 0 2 4 年 1 1 月 3 0 日)

(選出区分別・五十音順・敬称略)

No.	選出区分	所 属	氏 名	備考
1	学校教育関係者	府中市立新町小学校 校長	高橋 伸嘉	新任
2		府中市立府中第三中学校 校長	持田 晃	再任
3	社会教育関係者	原爆の凶丸木美術館 学芸員・専務理事	岡村 幸宣	新任
4		世田谷美術館 副館長 兼 学芸部長	橋本 善八	再任
5		国立新美術館 教育普及室長	真住 貴子	新任
6	家庭教育の向上に 資する活動を行う者	府中市立府中第一中学校 P T A 会長	水橋 佳也子	新任
7	学識経験を有する者	美術史家・大学非常勤講師	隠岐 由紀子	再任
8	地域関係者	府中市商店街連合会	加賀美 敦子	新任
9		美術家	金田 実生	再任
10		ボランティア地域美術 代表	吉田 裕子	再任
11	公募による市民		瑞慶覧 香織	再任
12			森下 英美	新任

関係法規 府中市美術館条例・府中市美術館条例施行規則（抜粋）

■府中市美術館条例

（運営協議会の設置）

- 第 22 条 博物館法第 20 条第 1 項の規定に基づき、府中市美術館運営協議会（以下「運営協議会」という。）を美術館に置く。
- 2 運営協議会は、委員 12 人以内をもって組織する。
 - 3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。
 - （1）学校教育及び社会教育の関係者
 - （2）家庭教育の向上に資する活動を行う者
 - （3）学識経験を有する者
 - 4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 5 運営協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

■府中市美術館条例施行規則

（運営協議会の運営等）

- 第 14 条 条例第 22 条に規定する府中市美術館運営協議会（以下「運営協議会」という。）は、美術館の運営について、館長の諮問に応じ審議し、答申するほか、館長に対して意見を述べる。
- 2 運営協議会に会長及び副会長を置く。
 - 3 会長及び副会長は、委員の互選による。
 - 4 会長は、会務を総理し、運営協議会を代表する。
 - 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（運営協議会の会議）

- 第 15 条 運営協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。
- 2 運営協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
 - 3 運営協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 4 会議は公開を原則とする。ただし、会長が必要があると認めるときは、これを非公開とすることができる。

第12期 府中市美術館運営協議会 予定

■令和5（2023）年2月 （第1回）

- ・委嘱状の伝達
- ・正副会長の選出
- ・諮問事項の伝達
- ・府中市美術館運営協議会についての説明（位置づけ・今後のスケジュールなど）
- ・府中市美術館についての説明（設置目的、運営形態、事業内容、施設概要など）
- ・諮問事項についての確認

■令和5（2023）年8月頃 （第2回）

- ・諮問事項にかかわる意見交換 ①

■令和6（2024）年1月頃 （第3回）

- ・諮問事項にかかわる意見交換 ②
- ・各委員からの意見の整理・集約

■令和6（2024）年5月頃 （委員4名程度による小委員会）

- ・答申案の作成

■令和6（2024）年8月頃 （第4回）

- ・答申案についての審議
- ・答申書の提出

府中市美術館 要覽



府中市美術館は、東京都のほぼ中央部に位置する多摩地域の拠点のひとつ、府中市が設置・運営する美術館です。

市民の心豊かな文化的生活に寄与するとともに、地域社会における美術教育・美術文化の振興を図るため、2000（平成12）年に、緑が広がる都立府中の森公園の一角に開館しました。

美術作品の「収集・保管活動」、企画展や常設展といった「展示活動」、多彩な「教育普及活動」、それらの基盤となる「調査・研究活動」、市民の創作活動の場となる「市民ギャラリーの運営」、そして美術情報の発信やカフェ、ミュージアムショップの充実といった「広報・サービス活動」を展開しています。

基本テーマ

生活と美術

||

美と結びついた暮らしを見直す美術館

基本的性格

(1) 地域社会に根差した親しみのある美術館

公園と調和した、緑あふれる、安らぎとふれあいの場。

市民が気軽に美術館を利用し、美術を身近に感じ、心の豊かさを育める場。

(2) 質の高い美術作品を身近に鑑賞できる美術館

市民が優れた作品と出会い、美術文化に対する深い理解と親しみを持てる機会を提供し、心豊かな生活が享受できる美術館。

(3) 市民や子どもの才能と美意識を育む美術館

学習、創作、発表を通して、学習意欲、才能、美意識を育むことができる美術館。社会教育機関や学校教育と連携を図り、美術館施設を積極的に子どもに開放し、美術館活動への参加を通して、幼い頃から美術に親しみ楽しめる環境を整備。

(4) 新しい美術情報を吸収できる美術館

伝統的文化を踏まえながら美術の国際化、多様化、情報化に対応し、幅広い視野で多角的に美術をとらえる新しい美術館。

1983 (昭和58)年	4月	1969年、1976年の長期計画に続いて、総合計画に「美術館の建設」が盛り込まれる。
1986 (昭和61)年	4月	文化振興基金に10億円を目標に美術品購入のための積み立てを開始。
	8月	市民参加による第一次文化懇談会から「美術文化の核となる美術館建設」の提言を受ける。
1991 (平成3)年	3月	市民参加による第二次文化懇談会が美術館建設を提言。
	9月	市民参加による美術館建設検討協議会が「府中市美術館の基本構想について」を答申する。
1994 (平成4)年	12月	文教委員会に美術館建設予定地を都立府中の森公園とすること、 東北地方の個人が所有する近代洋画のコレクションを一括購入することが報告され、交渉が了承される。
1996 (平成8)年	6月	文教経済委員会が、8度にわたる市民関係団体との懇談会を踏まえて修正された基本計画を了承。
1997 (平成9)年	3月	文教経済委員会に、基本設計を報告。市議会が実施設計及び建設工事の予算を可決。
	11月	東京都が美術館の設置を許可(公園施設設置許可)。
	12月	建設工事着工。
1998 (平成10)年	6月	洋画家牛島憲之の作品111点が遺族から府中市に寄贈される。
1999 (平成11)年	9月	「府中市美術館条例」が市議会で可決、施行される。
2000 (平成12)年	6月	建設工事竣工。
	10月14日	府中市美術館開館。
2010 (平成22)年	9月	開館10周年記念「バルビゾンからの贈りものー至高なる風景の輝き」展を開催。
2018 (平成30)年	3月	コレクションの充実のため美術品購入基金が新たに設置される。
	9月	エントランスロビーの天井改修補強工事等を実施。翌年3月まで休館。
2021 (令和3)年	9月	開館20周年記念「動物の絵 日本とヨーロッパ」展を開催。



事業

展覧会

企画展示室では、年間5～6回、近世から現代まで、国内外の様々な美術をテーマとした企画展を開催しています。常設展示室では、2300点を超える所蔵作品の中から、各期のテーマに沿って作品を紹介しています。

事業



企画展示室 2



常設展示室 1



常設展示室 2・3

収集・保管 / 調査・研究

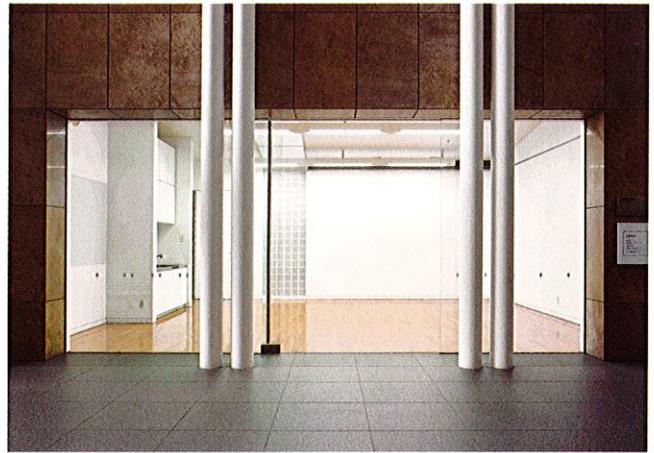
収集の基本方針に沿って美術作品を収集し、次世代への継承のため、安全かつ良好な環境で保管しています。また、美術館活動の基本的機能を充実させるため、調査・研究を行っています。



収蔵庫

教育普及

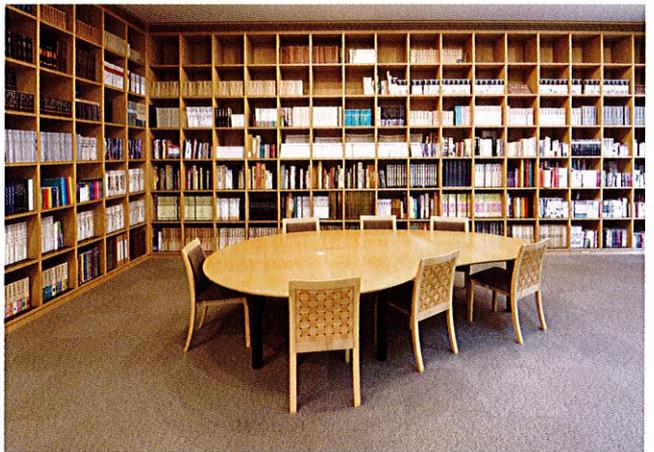
アーティストの制作プロセスを公開する公開制作、アートスタジオをはじめとしたさまざまなワークショップ、府中市立小中学校美術鑑賞教室をはじめとした学校との連携など、多彩な教育普及活動を通じて、美術の魅力にふれる多様な機会を提供しています。



公開制作室



創作室



美術図書室

市民ギャラリー・広報・サービス

創作活動の発表の場として、市民ギャラリーの貸出を行っています。また広報活動を充実させ、ミュージアムショップやカフェなど、美術に身近に感じ安らげる場を提供しています。



市民ギャラリー

収 集

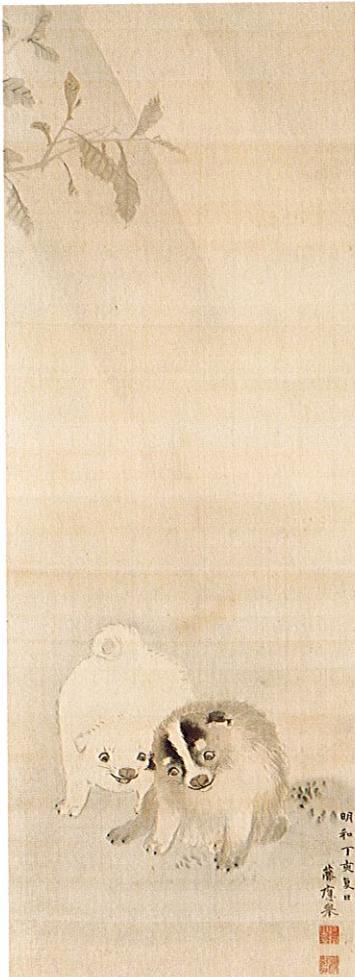
収集の特色

親しみやすい近代以降の日本の美術に焦点をあてます。特に西洋美術との相互関係、伝統的美意識の展開などを視野に入れ、日本近代美術の流れや特質を展望できるコレクションを形成します。

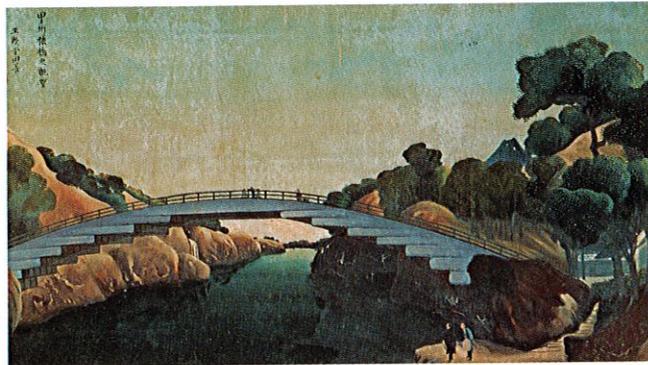
収集の基本方針

- ・府中市及び多摩地域にゆかりのある優れた作家の作品
- ・国内外の主に近代以降の優れた美術作品
- ・将来性ある若手作家の作品
- ・その他当美術館にふさわしい美術作品及び関連資料

主な所蔵作品



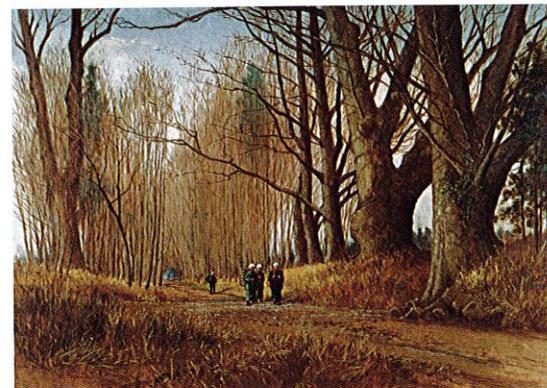
円山応挙《時雨狗子図》1767（明和4）年



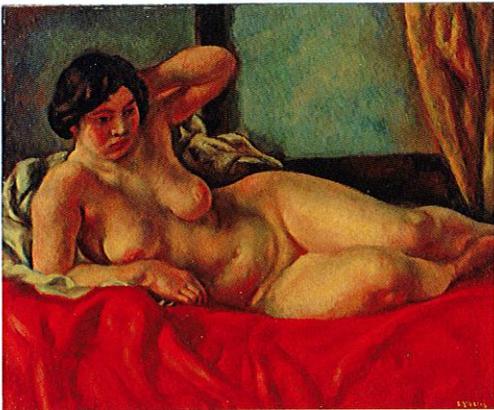
並歌堂田善《甲州猿橋之眺望》文化年間（1804-18）頃



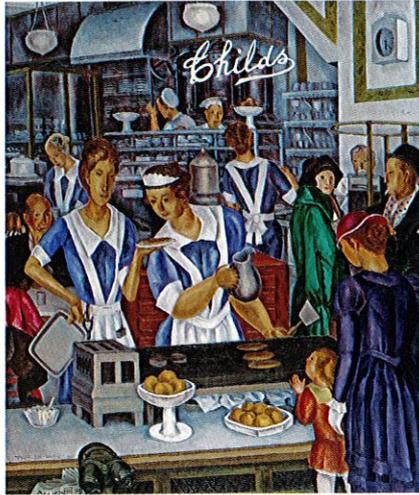
高橋山一《墨水桜花輝耀の景》1874（明治7）年



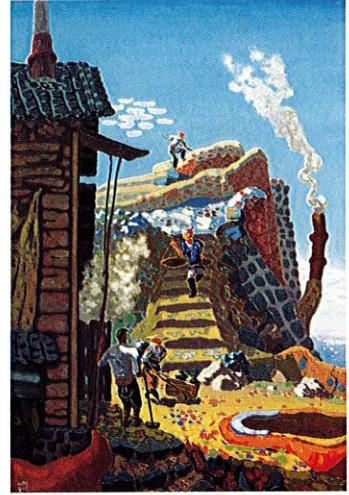
本多錦吉郎《景色》1898（明治31）年



安井曾太郎《臥裸婦》1916（大正5）年頃



清水登之《チャイルド洋食店》1924（大正13）年



牛島憲之《貝焼場（午後）》1935（昭和10）年



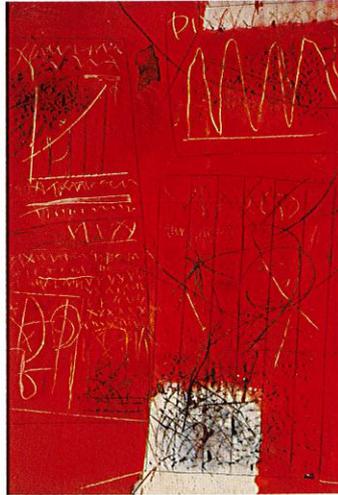
長谷川利行《白い背景の人物》1937（昭和12）年



正宗得三郎《鎮守の森》1954（昭和29）年



小山田二郎《鳥女》1960（昭和35）年



斎藤義重《作品4》1963（昭和38）年

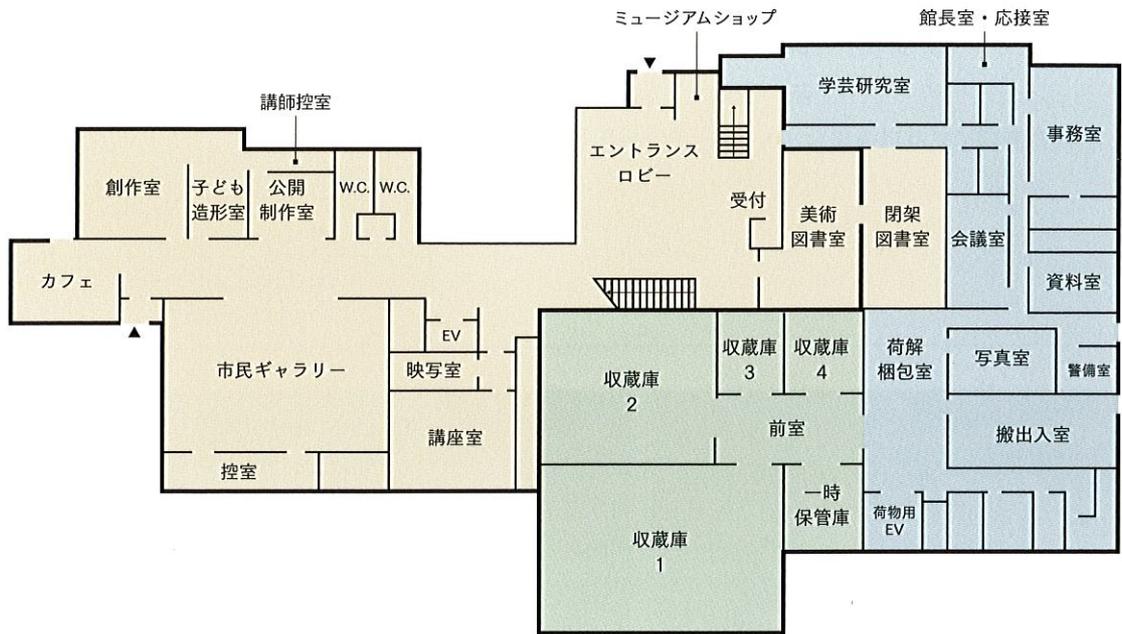


曾谷朝絵《Washbowl》2000（平成12）年

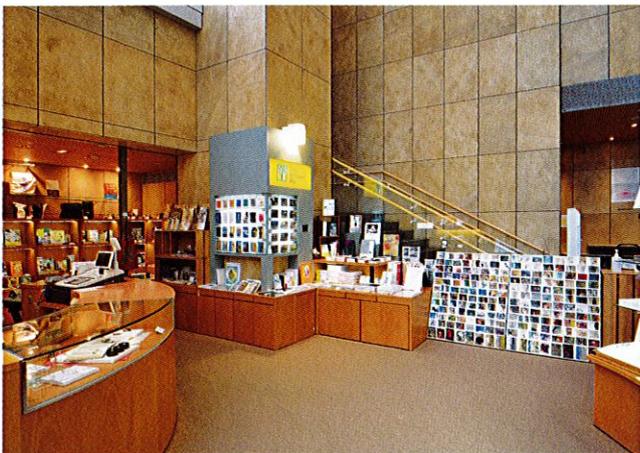
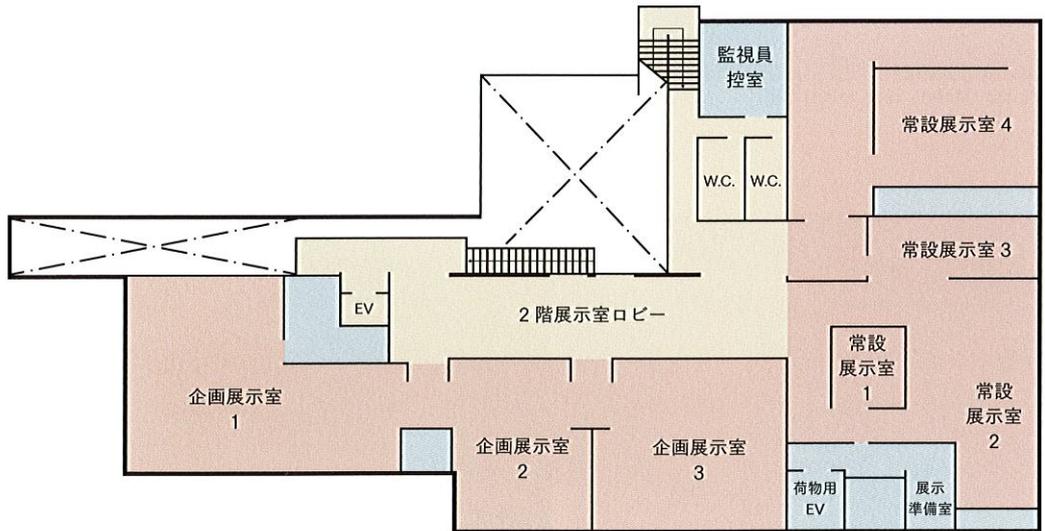
施設

平面図

1階 ▶



2階 ▶



ミュージアムショップ



カフェ

フロア構成・面積表

○展示部門

企画展示室	787.73㎡
企画展示室1	366.87㎡
企画展示室2	180.80㎡
企画展示室3	240.06㎡
常設展示室	671.50㎡
常設展示室1	44.67㎡
常設展示室2	233.57㎡
常設展示室3	77.78㎡
常設展示室4	315.48㎡

○教育普及部門

創作室	94.00㎡
子ども造形室	48.00㎡
公開制作室	45.75㎡
講師控室	18.75㎡
美術図書室	93.33㎡
閉架図書室	97.87㎡
講座室	112.38㎡
映写室	19.05㎡

○市民ギャラリー部門

市民ギャラリー	271.69㎡
控室	40.45㎡
地下搬出入口	30.76㎡

○共用サービス部門

エントランスロビー	462.22㎡
ミュージアムショップ	17.10㎡
受付案内コーナー	29.81㎡
カフェ	71.18㎡
2階展示室ロビー	387.86㎡

○収蔵部門

収蔵庫1	329.01㎡
収蔵庫2	237.44㎡
収蔵庫3	42.14㎡
収蔵庫4	54.18㎡
一時保管庫	54.18㎡
収蔵庫前室	94.30㎡

○調査研究部門

181.94㎡

○管理部門

300.72㎡

○共用共通

1037.67㎡

○機械

823.53㎡

○地下駐車場

970.56㎡

合計

7794.99㎡



講座室



荷解梱包室

建築概要

所在地 東京都府中市浅間町1丁目3番地
設計 株式会社日本設計
敷地面積 7570.82㎡
建築面積 3700.23㎡
延床面積 7794.99㎡ (地下駐車場970.56㎡を含む)
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造及び鉄筋コンクリート造、地下1階地上2階

施工

建築工事 戸田建設株式会社・石原建設株式会社・林建設株式会社建設共同企業体
電気設備工事 住友電設株式会社・株式会社荒井電業社建設共同企業体
空調設備工事 新菱冷熱工業株式会社
給排水衛生設備工事 株式会社朝日工業社・株式会社八洲建設共同企業体
昇降機設備工事 株式会社東芝
外構工事 関根建設株式会社
植栽工事 株式会社宮光園
外構電気設備工事 株式会社日光電機
外構給排水設備工事 株式会社八洲
サイン工事 株式会社京王エージェンシー
映像設備工事 清水電設株式会社
音声ガイド等設置工事 株式会社田中電業社

主な仕上げ

外壁 石灰石(ライムストーン)乾式貼
アルミパネルフッ素樹脂焼付塗装
屋根 ステンレス防水シーム溶接
アスファルト防水、ステンレス防水
天井 アルミパネル、FGボード、プラスターボード、天然木練付調湿剤(収蔵庫)
幕天井(エントランスロビー)
壁 石灰石(ライムストーン)乾式貼、ガラスクロス張、塗装、織物クロス張、アクリルプラスターこて塗
床 花崗岩、天然木フローリング、タイルカーペット張、天然木練付調湿剤(収蔵庫)

設備概要

電気設備

電力 引込 地中方式1回線 6.6KV
電源設備 変圧器 5台1475KVA
発電機 1台210V 350KVA (防災兼用)
蓄電池 54セル 105V (防災兼用)
幹線 照明 単相3線式210V/105V
動力 3相3線式210V
防災 発電機 1台210V 350KVA
蓄電池 54セル 105V
火災探知機 394回線
非常照明 電池別置
非常放送 520W (業務放送兼用)

空調設備

熱源 都市ガス、電気
装置 水冷式スクルーチラー1台、ボイラー2台
吸収式冷温水発生機2台、蓄熱槽250㎡
空調 インテリア 個別式 単一ダクト方式
ペリメーター 個別式
ファンコイルユニット方式
制御 空調 電子式
防煙ダンパー 電気式
換気 個別式 1種・3種
排煙 機械排煙方式(排煙機4台)

給排水衛生設備

給水 水源 上水、雑用水 引込口径50mm
ポンプ圧送
受水槽 上水 20㎡×1基(有効)
雑用水 15㎡×1基(雨水)
給湯 個別式 貯湯式(電気)、瞬間式(ガス)
排水 屋内排水 分流 / 屋外排水 下水道放流
ガス 都市ガス 低圧200mm
発熱量10000Kcal/㎡
消火 屋内消火栓、スプリンクラー消火、泡消火、消防用水(63.6㎡)、消防水利(46㎡)、窒素ガス消火(収蔵庫・展示室)

昇降機

荷物用1台 油圧式2段速度制御方式 4000kg
人・荷物用1台 油圧式2段速度制御方式 2500kg
エスカレーター 交流式一段速度上下可逆式 9000人/時間

展示保存環境

空気調和(温湿度の設定は変更可能)

		展示室	収蔵庫
設定温度	夏期	24-28°C	20-24°C
	冬期	20-24°C	20-24°C
設定湿度	通年	48-62%	

照明(リモコンリレー付き 操作パネル及び個別調光)

企画展示室 蛍光灯用5回路 ライティングレール24回路
常設展示室 蛍光灯用・LED用11回路 ライティングレール22回路

防災・防犯設備

警備センター集中監視
複合GR型、自立型、蓄積式、予備電池内蔵
LSDタッチパネル付表示方式
自火報、防火戸、シャッター、防排煙、屋内消火栓、N2消火、スプリンクラー他
ITV監視装置

建築費

本体工事費 57億7,815万円
設計・監理費 2億5,891万円
外構工事費 2億1,815万円

開館時間

午前10時から午後5時まで（展示室への入場は午後4時30分まで）

休館日

月曜日（祝日の場合は翌日）、
国民の祝日の翌日、年末年始、展示替えの期間など

常設展観覧料

	個人	団体（20名以上）
一般	200円	150円
高校生・大学生	100円	80円
小学生・中学生	50円	30円

企画展観覧料

展覧会ごとに定める
※未就学児及び障がい手帳等をお持ちの方は無料。

交通案内

京王線府中駅から

- ・ちゅうバス 多磨町行き「府中市美術館」① 下車すぐ
- ・京王バス武蔵小金井駅南口行き（一本木経由）
「天神町二丁目」② 下車すぐ
- ・京王バス武蔵小金井駅南口行き（学園通り経由）
「天神町幼稚園」③ 下車徒歩8分
- ・京王バス国分寺駅南口行き（東八道路経由）
「天神町幼稚園」③ 下車徒歩8分

京王線東府中駅北口から

- ・徒歩17分
- ・ちゅうバス（府中駅行き）「府中市美術館」① 下車すぐ

JR中央線武蔵小金井駅南口から

- ・京王バス府中駅行き（一本木経由）「一本木」④ 下車すぐ
- ・京王バス府中駅行き（学園通り経由）
「天神町幼稚園」⑤ 下車徒歩8分

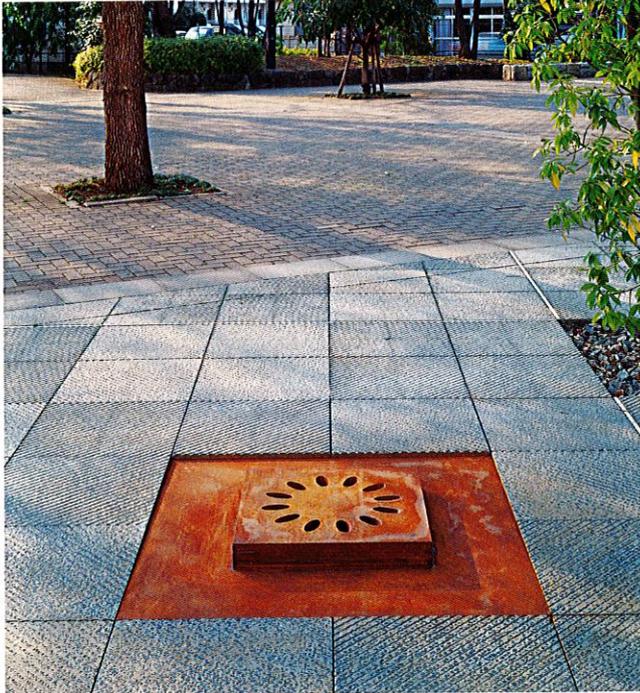
所在地

183-0001
東京都府中市浅間町1丁目3番地
都立府中の森公園内

TEL：042-336-3371（代表）
FAX：042-335-7576

ハローダイヤル：050-5541-8600
ホームページ：
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>





若林奮《地下のデイズー》2002（平成14）年 | 撮影：山本紉



府中市美術館要覧

編集・発行 | 府中市美術館
発行日 | 2022（令和4）年3月

嵐の高原に五七ワザの雄馬
ただいまやさしき明治
5/21 [土] — 7/10 [日]

明治の画家たちは、日本の自然のすばらしさや心のやさしさを誇るものように筆をふるった。その筆をふるった人たちが描いた雄馬は、日本のあまのこころをのびのびと表現した。海外に滞在した日本をのびのびと表現した五七ワザの雄馬を、京都の嵐の高原に、おぼろげに描き写した。雄馬のやさしさをのびのびと表現した。



夏休みのアート
アートのだねを見つけよう!
7/23 [土] — 9/11 [日]

アーツ・アンド・クラフツとデザイン
9/23 [金・祝] — 12/4 [日]

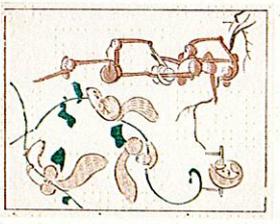
近代化、工業化の進む19世紀のイギリスで、丁寧な手仕事による日常品で人々の暮らしを豊かにすることを目指したアーツ・アンド・クラフツ運動は、やがて世界へと広がりました。高貴なキチンや、ガラス、ジュエリーなど約150点によって、その世界をご覧ください。



アーツ・アンド・クラフツ
William Morris, 'Sunderby Tree', 1881. Private collection.

諏訪 隈高雲の火事
12/17 [土] — 2023/2/26 [日]

「雪災」の画家・隈高雲、丹念な描写と重層的な構図を凝らして、精緻な描写で描かれたその作品は、「見ることに飽きない」と評されています。野心的で今日の意義を知らずとも、精緻な筆致で描かれたその作品は、その時代の深淵に迫ります。



江戸絵画まつり
江戸絵画まつり
3/11 [土] — 5/7 [日]

「We're Back! -Benevolent Meiji-」
Japan Rediscovered through Painting
Collectors' TAKAONO Misumasa

Painters in the Meiji era proudly demonstrated the wonder of nature in their detailed renderings of the Japanese landscape to foreigners. The "picturer" within to Japan took back to their homeland perfectly exemplified the freshness of Japan. One Japanese man devoted half of his life to collecting images of "Japan" scattered abroad. Following an exhibition in Kyoto, his collection is on show for the first time in Japan as a request to the well-received exhibition We're Back! -Benevolent Meiji-: the serendipity of the Meiji era is presented by you.

アートの始まりは、どこにあるのでしょうか。私は、私たちの生活の中にあります。アートを生み出すには、その心を自分で見つけて、大切に育てることが必要です。芽が出て草花が育ち、花が咲くまでのプロセスを辿り、作品の成り立ちを学べます。大人も子どもも一緒に、美術館のアートワークショップを楽しみ、アートのたのしみを見つけてみましょう!

Art & Crafts and Design
Art is the progress of modernization and industrialization in Britain in the nineteenth century. William Morris aimed at adding color to the people's living through daily objects carefully created by hand. Taking over that principle, the Arts and Crafts Movement eventually spread all over the world. Approximately 150 examples of furniture, textiles, ceramics, and jewelry are on show.

Fire in the Medial Orbito-Frontal Cortex
SUMA Aoyagi is a pioneer of "realism". His works elaborately depicted by way of meticulous research and mobile camera work, the contemporary Japanese society and its various aspects. In his series of "Incidents and Depicting", recent works by Suma, from Abandoned Civilian, a series on the theme of his grandfather, who died in Manchuria, immediately after the end of the Pacific War, to his latest works, are introduced in an attempt to study the depths of his art.

Lessons on Edo-Period Painting
If you want to study painting, begin at any age with Western-style drawing. This is the main reason you probably entered. If that was the case, how did this, which is the main reason you probably entered, in this exhibition, we will examine how your teacher painted or created lessons. Regardless of whether you are a painter yourself or whether you like looking at pictures, you might be able to get closer to the essence of the charm of Edo-period painting.

公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs

Table with 12 columns representing months from 2022 to 2023, listing various programs and dates.

公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs

公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs



公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs



公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs

公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs

その他のプログラム
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs
公開制作 Open Studio Programs

府中市美術館 運営協議会 答申書

－ 府中市美術館の望ましい姿について －

令和4年11月

府中市美術館運営協議会

【はじめに】

府中市美術館運営協議会は、美術館・博物館の運営や事業に携わってきた者、美術史の研究者、美術作家、府中市の学校教育・家庭教育・地域活動の代表、そして利用者の声を反映する公募委員という、計12名の委員によって構成される。各委員にはそれぞれの経験や知見を活かしつつ、美術館に対する全国的な視座と、府中市の地域特性に寄り添った視点の双方から、府中市美術館の運営について助言・提言することが期待されている。本協議会は、令和2（2020）年12月から令和4（2022）年11月までの2年間にわたって、諮問事項「府中市美術館の望ましい姿」について、計4回の協議を重ねてきた。その協議を踏まえ【運営全般】【作品収集活動】【展覧会活動】【教育普及活動】【広報・情報発信活動】【施設整備】について、意見を提出する。

【運営全般】

府中市美術館の望ましい姿を考えるにあたっては、その成り立ちやこれまでの実績などを踏まえる必要がある。

同館は、平成12（2000）年10月に開館したが、それに先立つ平成8（1996）年6月には、府中市議会文教経済委員会において「府中市美術館建設基本計画」が了承された。その中では、基本テーマ「生活と美術＝美と結びついた暮らしを見直す美術館」や、四つの基本的性格「①地域社会に根差した親しみある美術館」「②質の高い美術作品を身近に鑑賞できる美術館」「③市民や子どもの才能と美意識を育む美術館」「④新しい美術情報を吸収できる美術館」が、掲げられている。

府中市美術館は、これらの基本計画に基づいて府中市が設置し、公立直営館として運営されてきた。今後のあり方を考えていく際にも、この基本計画や運営形態は維持・継承されていくべきである。

その一方で、この20年余りの間には、デジタル技術の進展や価値観の多様化など、社会状況も大きく変化してきた。博物館・美術館を巡る国際的な動向にも対応していく必要がある。そして本協議会が開催された期間には、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行およびそれに伴う行動制限という、未曾有の状況が生じた。こうした変化や危機にも柔軟に対応しながら、活動を継続していつてもらいたい。美術館は人々に希望を与える、そしてさまざまな利用方法・活用方法が考えられる場である。

設立準備の時点で掲げた目標を維持することと、時代の変化に合わせて柔軟に対応することとの、双方のバランスを取りながら、運営・事業・設備を考えていく必要がある。

【作品収集活動】

美術館ではこれまで、購入・寄贈あわせて約2,300点の美術作品を収集してきた。これらの収蔵作品は、美術館活動の基盤であるとともに、今後も末永く残されるべき府中市民の貴重な財産である。収集方針に基づきながら、100年後にも輝きを失わないコレクションの形成を目指さなければならない。

「江戸時代の絵画」や「明治から昭和にかけての洋画」といった作品群は、展覧会活動と密接に関連したものであり、同館の特色の一つである。また、府中市とその近隣の市では多くの作家が活動しており、美術大学も複数ある。このような地域の特性を活かすため、「府中および多摩にゆかりのある作品」や「現代の美術」についても、調査し、収集に結びつけていくことが望まれる。

充実した収集活動を継続していくためには、新規作品の購入は欠かせない。現在、作品購入は府中市美術品購入基金を財源としているが、この基金の維持や拡充は不可欠である。

収蔵作品は、適切な管理・保管を行い、後世に残していかなければならない。そのためには、作品とその情報の管理のための電子システム（データベース）の構築、作品の保存環境の維持、収蔵庫の収容能力の増強計画などが必要となってくる。

また収蔵作品は、保存のための十分な配慮を行った上で、積極的に活用していくべきである。常設展や所蔵品展での展示はもとより、印刷媒体や電子媒体での作品情報の紹介、美術館以外の場所での作品展示なども、検討事項に加えるべきである。

【展覧会活動】

開館以来、数々のユニークな展覧会を企画・開催し、府中市内はもちろん全国的にも高い関心を集め、多彩な鑑賞の場を提供してきた。これは、館長をはじめ、担当学芸員や職員が一体となって、さまざまな工夫をしてきた結果といえる。また、コロナ禍にあってもその影響を最小限にとどめ、展覧会活動を継続したことは、高く評価できる。

その上で、企画展のさらなる充実のために考えられることを、以下に列挙する。

- ①企画内容を高めるために、外部の研究者や美術評論家と連携・協働していくこと。
 - ②新たな観覧者を開拓するために、公募展・コンクール展などこれまでとは趣の異なる企画を行ったり、ターゲットとなる利用者層をより明確に意識したりすること。
 - ③展示作品への理解を深め観覧者の満足度を高めるために、解説文の質や読みやすさの配慮、ICT（情報通信技術）の活用等により作品解説を充実していくこと。
- これらを参考としながら、工夫を重ねていってほしい。

また、収蔵作品を常時展示する常設展やテーマを設けて特集展示する所蔵品展は、美術館の存在意義を伝える上で重要な展示活動である。この部分についても、企画展同様に力を注いでいく必要がある。

今後も美術館の展覧会活動が充実し、多くの鑑賞機会を提供していくことを、期待している。

【教育普及活動】

美術館では、作家の制作の過程を公開する「公開制作」、作品作りの楽しさを体験的に伝えるワークショップ「アートスタジオ」、府中市立の小中学校の鑑賞授業の機会となる「美術鑑賞教室」など、多彩な教育普及活動を展開してきた。

とくに学校教育の現場では、子どもたちへの美術鑑賞の場の提供やそのための美術館との連携が定着してきている。府中市内に美術館があることは、子どもたちの情操教育などの面において大きな利点であり、美術鑑賞教室をはじめとする児童・生徒への取り組みは、今後も継続してもらいたい。

幼少期から美術を楽しむことが習慣化していけば、10年後、20年後にその成果は大きく花開くことになり、子どもたちへの取り組みは今後も重要な事業である。さらに学校の利用については、府中市内ばかりでなく近隣地域においても需要があることと思う。

I C Tが目覚ましく発展した現代においては、いつでも誰もが手軽に様々な情報を取得できるようになり、学校現場においてもタブレットパソコンの導入が進んでいる。こうした状況に対応して、展覧会の様子、作品の解説、教育普及活動をオンライン上で公開するなど、教材として学校に提供することが望まれる。その一方で、美術館の最大の強みは、実物の「作品を鑑賞する」「創作活動に参加する」という場を伴う実体験にある。オンライン体験と実体験の双方のメリットを生かした事業展開を行っていく必要がある。

教育普及活動のより一層の充実のためには、ほかの機関やさまざまなスキルを持つ人々との連携や、これまでにない視点から事業を実施することも有効である。このほか、鑑賞ボランティアの養成による鑑賞プログラムの拡充、大学や在住外国人との連携による作品解説の多言語化、小中高生たちの祝休日や放課後の創造活動の支援、乳幼児やその保護者が気兼ねなく利用できる機会の拡充、誰もが利用しやすいプログラムの設定、リピーターを増やすための工夫などが求められる。

【広報・情報発信活動】

広報・情報発信の手段としては、従来から主力となってきたポスター・チラシ・広報誌などの印刷媒体、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのマスメディア、ホームページやSNS、動画配信などの電子媒体など、多彩な形態がある。

なかでも電子媒体は、近年その技術的進化と利用促進は著しく、今後も注力していくべき分野である。動画コンテンツは家庭での視聴ばかりでなく、学校の授業での活用など、さまざまな利用方法が考えられる。SNSによる情報発信は、利用者によって情報拡散という付帯効果が期待できるほか、ターゲットの絞り込みもしやすく、広報面での費用対効果が高い。さらに電子媒体は、実施中の事業についての情報の発信ばかりでなく、過去の事業についての情報の蓄積・アーカイブ化という役割を果たすことも可能なため、重要な活動である。

発信情報の内容については、単純な事業単独の広報を目的としたものばかりでなく、設立理念や運営方針に関するもの、美術作品や図書など資料情報の提供、作品解説や教育普及の動画配信なども必要だろう。その結果、美術館のブランドイメージを高めることも期待できる。

府中市美術館の情報発信活動は、総じて充実してきているが、これらの活動を管理係や学芸係の職員が兼務していくことは、その専門性や業務量の面から困難である。

広報・情報発信活動を戦略的に行うとともに、即時性をもって対応していくためには、専門的な知識と経験を持った担当者の配置が必要である。

その一方で、電子媒体が発達する状況下においても、デジタル技術になじみのない層や印刷物に親しみを持つ層も存在し続ける。また、印刷媒体と電子媒体には、それぞれの長所と短所がある。従来からある媒体と新しい媒体の特徴を活かした多角的な広報・情報発信を行っていくことが望ましい。

【施設整備】

今後も健全な美術館運営を継続していくためには、建物・設備の修繕・更新は早めに行うことが望ましい。そのことが結果的に、美術館の長寿命化と維持コストの低減に有効に働く。また今後、施設の維持・長寿命化のための大規模な改修が行われることと思うが、その際には、建物の建築当初のデザインやイメージを踏襲すること、浸水や地震など自然災害への備えも十分に配慮すること、改修のための長期休館中も美術館の活動を維持していくこと、改修後の長期的な維持管理計画を策定していくことなどが必要になると考えられる。

収蔵庫については、立地条件からも大規模な増床は困難と思われるが、棚の増設など収容能力を増強することで、良好な収蔵環境を維持するべきだ。

また、展示室照明の更新・LED化や額装方法の工夫による鑑賞環境の改善、降り用エスカレーターと授乳室の新設などさまざまな利用者に対応した施設の拡充、Wi-Fi環境や電子決済システム、多目的な教育普及スペースといった新しいニーズへの対応なども、検討していただきたい。

【おわりに】

府中市美術館はこれまで、作品収集活動、展覧会活動、教育普及活動の各分野にわたって注目を集める個性的な事業を展開してその評価は全国的にも高く、また、府中市の文化拠点のひとつとして市民に親しまれる活動を行ってきた。これらの成果は、単に美術館とその職員の努力にとどまらず、公立直営館としての安定した運営体制や、府中市の他部署との円滑な協力関係があつてのものである。

しかし、開館以来20年余りを迎えた美術館では、新たな時代に対応した事業展開や機能の充実が求められ、また老朽化した施設の改修・更新の必要性が生じており、これらへの適切な対応や予算の確保が、今後は課題となっていく。

設立当初の基本計画を踏まえるとともに、時代の変化に柔軟な対応を伴った改善・改革を図り、府中市美術館の活動がより一層充実していくこと、そして人々に「希望を与える場」となっていくことを期待する。

令和4年11月

府中市美術館運営協議会

会長	谷 矢 哲 夫
副会長	橋 本 善 八
委員	持 田 晃
委員	寺 田 慎 吾
委員	佐 伯 智
委員	隠 岐 由紀子
委員	高 尾 戸 美
委員	金 田 実 生
委員	吉 田 裕 子
委員	堀 江 一 男
委員	清 水 正 人
委員	瑞慶覧 香 織

府中市美術館 入場者状況の推移

単位：人

	平成31(令和元)年度	令和2年度	令和3年度
参加総人数	253,766	253,766	253,766
展覧会 (開催日数)	184,884	40,752	143,872
	<企画展> 入場者数	<企画展> 入場者数	<企画展> 入場者数
	へそまがり日本美術(37日) 36,050	ふつうの系譜展(4日) 401	与謝蕪村展(21日) 7,085
	棟方志功展(38日) 15,276	日本の美術を貫く炎の筆線展(57日) 6,295	映えるNIPPON展(36日) 6,079
	おかえり美しき明治展(68日) 17,208	メイド・イン・フチュウ展(66日) 3,606	動物の絵展(62日) 38,320
	青木野枝展(62日) 9,300	与謝蕪村展(16日) 3,909	池内晶子展(56日) 9,260
	ふつうの系譜展(15日) 2,830		ふつうの系譜展(17日) 2,636
	<所蔵品展>	<所蔵品展>	<所蔵品展>
	ぱれたんゆめのせかい(38日) 11,153	ひらいてみよう美術の扉(44日) 5,215	ぱれたんとむら田展(36日) 8,459
	<常設展> 258日 93,067	<常設展> 217日 21,326	<常設展> 228日 72,033
公開制作	43,454	17,333	38,249
作家名 (題名)	原田郁 16,984 (もうひとつの世界 10年目の地図)	児玉幸子 5,391 (脈動—溶けるリズム)	梶田ちひろ 8,081 (縫れもつ、解ほどけ、すべては進みながら起こる)
	山口啓介 16,184 (メタモルフォセス)	三沢厚彦 6,071 (府中の森のアニマルルーム)	浅井裕介 21,807 (種を食べた美術館)
	高嶋英男 10,286 (からっぽに満たされる)	L PACK. 5,871 (アイビス・ア・カッフのアトリエ)	岩井優 8,361 (ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム)
市民ギャラリー	25,428	5,094	11,887

府中市美術館 歳入歳出事項別状況

歳入

(単位:円)

目	事項	細事項	31(R1)年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算
			57,521,203	26,302,409	83,800,076	59,532,000
	美術館観覧料		41,499,780	6,112,990	37,346,683	30,447,000
	美術館使用料		2,340,000	480,000	850,000	2,760,000
	東京の美術館・博物館等共通入館事業分配金収入		153,796	273,082	84,386	250,000
	ワークショップ受講料等収入		385,300	7,000	28,800	100,000
	その他収入		13,142,327	19,429,337	45,490,207	25,975,000

歳出

目	事項	細事項	31(R1)年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算
美術館費			270,263,581	243,786,929	429,914,181	341,574,000
	美術館館長費			2,016,000	2,016,000	2,016,000
	美術館運営協議会運営費		209,000	275,000	231,000	348,000
	美術館収集選定委員会運営費		100,000	100,000	81,606	210,000
	展覧会事業費		70,571,746	61,711,500	132,257,411	70,365,000
	美術普及事業費		8,155,057	5,953,789	8,308,870	9,534,000
	所蔵品展示管理費		18,002,015	11,227,660	14,531,821	20,576,000
	美術品購入費		0	15,730,000	32,725,000	25,300,000
	図書資料等購入費		922,763	1,003,008	987,930	994,000
	施設管理費		140,192,142	137,318,388	149,523,942	150,828,000
		管理委託料	77,309,419	79,276,274	91,709,684	98,070,000
		光熱水費及び燃料費	40,194,226	32,195,333	35,441,849	31,318,000
		諸経費	22,688,497	25,846,781	22,372,409	21,440,000
	負担金		215,000	315,000	270,000	14,570,000
	賄費		133,714	3,130	2,671	139,000
	管理事務費		8,432,144	7,356,454	8,131,330	8,494,000
	管理用備品整備費		0	1,793,000	0	0
	美術館整備事業費		22,330,000	0	6,930,000	37,200,000
	美術品購入基金積立金		1,000,000	1,000,000	75,932,600	1,000,000

歳出に対する歳入の割合	21.3%	10.8%	19.5%	17.4%
-------------	-------	-------	-------	-------